

■ 特集「人間関係研究センター40年をふりかえる」

人間関係研究センター「公開講座」のあゆみ

坂 中 正 義

(南山大学人文学部心理人間学科)

はじめに

本論では、人間関係研究センターで開講された公開講座の40年のあゆみをふりかえる。公開講座はその内容からいくつかの区分に分けられている。まずは、その区分の変遷を紹介する。そのうえで、センター開設当初より継続的に実施され、2018年度で110回と回を重ねている人間関係講座の変遷とそれ以外の講座の特徴を紹介する。最後に公開講座数と参加者数からみたセンターの発展の特徴をまとめる。なお、年ごとに開講された公開講座名と参加者数などをまとめたものを付録として文末に収録した。適宜参照されたい。

ところで、公開講座のアナウンスはセンター開設当初は口コミ等で行われていた。その後、1984年に紀要が創刊され、1988年からカタログ作成がはじまり、広く広報が可能な体制が整った。ホームページによる広報は2001年度より行われており、現在はカタログとホームページを用いた広報体制となっている。

以下、南山短期大学人間関係研究センターのことを「南短センター」、南山大学人間関係研究センターのことを「南大センター」、南山短期大学人間関係研究センターと南山大学人間関係研究センターを通して論じる場合は「センター」と略記する。

講座の区分

公開講座はセンター開設当初より内容によって分けられてきた。この区分は現在までに2回改変されているため、3種類の区分が存在する。以下、その変遷を紹介する。

I 期（3区分）：南短センター：1977年度～1999年年度、南大センター：

2000年度

センター開設より南短センター時代をとおして、および、南大センターの初年度(2000年度)までは「人間関係基礎研修講座」「人間関係専門研修講座」「人間関係特定研修講座」の3区分が用いられている。

「人間関係基礎研修講座」は現在の人間関係講座が該当する。

「人間関係専門研修講座」は、基礎講座以外の一般向け講座であり、個人へのアプローチに関わるカテゴリーAと、Tグループを中心としたグループへのアプローチに関わるカテゴリーBに細分化されている。具体的な講座名などは付録を参照されたい。

「人間関係特定研修講座」は教師、企業関係者、カウンセラーといった特定職種をメインターゲットにした講座である。具体的な講座名などは付録を参照されたい。

Ⅱ期(2区分):南大センター 2001年~2006年

南大センターの2年目(2001年度)から2006年度までは「基礎研修」「専門研修」の2区分が用いられている。

「基礎研修」はⅠ期の区分の「人間関係基礎研修講座」と同様、人間関係講座が該当する。

「専門研修」は人間関係講座以外の全ての講座が該当する。Ⅰ期の区分である「人間関係専門研修講座」と「人間関係特定研修講座」があわせて1区分となったといえよう。具体的な講座名などは付録を参照されたい。

Ⅲ期(2区分):南大センター 2007年度以降

南大センターの2007年度から2018年度現在までは「コア講座」「関連講座」の2区分が用いられている。

「コア講座」は、ラボラトリー方式の体験学習に関わる講座カテゴリーで、Ⅱ期の「基礎研修」および「専門研修」のうちのラボラトリー方式の体験学習に関わる講座が該当する。具体的な講座名などは付録を参照されたい。

「関連講座」は上記以外の講座である。具体的な講座名などは付録を参照されたい。

人間関係講座のあゆみ

センター開設時より継続的に実施され、2018年度現在、110回と回を重ねている人間関係講座は、センター公開講座のベースとなるものといえよう。自己理解や他者理解、コミュニケーション能力、感情の重要性の理解、グループの中での自身の特徴の理解や、グループプロセスの理解をねらいとしたワークやエクササイズを用いた構成的な体験学習の基礎講座である。前述した講座区分が変わっても、一貫して基礎講座やコア講座に位置づけられている。また、講座自体も発展拡充されている。ここではその変遷を紹介する。

入門講座

南短センター開設から5年目の1981年度までは「入門講座」として年に1, 2回、計8回開講されている。この時期は平日夜間や土曜午後を利用した継続形式のプログラムであった。

人間関係講座(基礎研修)

南短センター6年目の1982年度から南大センター開設の2000年度までは、先の「入門講座」を「人間関係講座(基礎研修)」に名称変更し、年に2, 3回、開催される形式となった。入門講座同様、継続形式のプログラムが中心であったが、集中形式で行われることもあった。

人間関係講座(コミュニケーション)、人間関係講座(グループ)

南大センター開設2年目の2001年度以降、人間関係講座の内容をグループとコミュニケーションに分けて2講座体制で実施されるようになった。

2001年度は講座名としては「人間関係講座」のまま、コミュニケーションとグループという異なったテーマで各1講座ずつ実施されたのち、2002年度より、「人間関係講座(コミュニケーション)」、「人間関係講座(グループ)」と講座名が変更された。ただし、2003年度はこの2つの講座以外にも「人間関係講座(集中)」として、グループとコミュニケーション両方の内容を含んだ旧来の「人間関係講座」も実施されており、2001年度から2003年度の3年間は試行期間ともみなせる。

2004年度は、「人間関係講座(コミュニケーション)」は平日夜間、「人間関係講座(グループ)」は、土日連続を2回といった継続形式で実施される。2005年度から2012年度までは、「人間関係講座(コミュニケーション)」は平日夜間の継続形式で、「人間関係講座(グループ)」は土日集中形式で実施された。2007年度以降は「人間関係講座(グループ)」は年2回体制で、2013年度以降は両プログラム共、土日集中型で年2回実施体制となる。

その他の講座のあゆみ

センターの公開講座は、先述の人間関係講座以外にも個人の心理的成長や人間関係、グループなどに関わる幅広いユニークな講座が開設されている。以下、変遷を振り返ると共に、代表的な講座を内容をカテゴリー化して、その特徴を概観する。

センター開設後10年

センター開設初年度は人間関係講座以外は「人間関係特定研修講座」の「Community Language Learning講座」のみである。これはグループ等に関わ

る英語文献の読解講座であった。

2年目より「人間関係専門研修講座」カテゴリ-Bの「グループ成長」講座が開設され、1985年度までほぼ毎年、実施されている。内容的には「人間関係入門講座」をふまえ、よりグループに特化したアドバンスにあたる講座とみられ、センター初の土日宿泊形式(を2回)で実施されている。その後続くグループに関わる様々な講座の元型がここにあるといえよう。ちなみに人間関係講座以外で初期から現在に至るまで継続的にもっとも長く開催されている「Tグループ」講座は「グループ成長」閉講1年後の1987年度から開催されている。

3年目からは「人間関係専門研修講座」カテゴリ-Aの「自己啓発」講座が土日宿泊形式(を2回)で開催され、1988年度まで実施されている。内容的には「人間関係入門講座」をふまえ、より個人に特化したアドバンスにあたる講座とみられる。こちらもその後続く個人の心理的成長に関わる様々な研修の元型といえよう。付録で確認出来るが、この講座と入れ替わるように1989年度より「TA(入門)」や「からだことば」などといった主に個人に焦点を当てた講座が開いてゆく。

以上をふまえた上で付録を確認すると、「人間関係基礎研修講座」としての「人間関係講座」と「人間関係専門研修講座」としての「グループ成長」講座、「自己啓発」講座がセンター初期10年を特徴づける講座であることがみえてくる。

なお、3年目は「人間関係特定研修講座」において、「カウンセリング講座」が開講される。この区分は前述のように特定職種をメインターゲットにしたものであり、この講座はカウンセラーをターゲットとした講座であろう。この区分は3年未満で閉講した講座が多いが、「教師のためのセミナー」は7年間、それと入れ替わる形で開講された「WS教え・育てる人生」は3年間、計10年、教師・教育関係者向け講座が続いている。また、企業関係者をターゲットにした講座も複数あり、ここから、カウンセリング系、教育系、企業系という現在のセンターの講座のひな形のようなものがみとれる。

センター開設10年以降

センター開設10年以降、様々な講座が開く。これらはその時その時のセンター員の持ち味を活かした講座であるが、内容によっていくつかにカテゴリー分けできる。以下、代表的なものを上げる。

・主に個人に焦点を当てたもの

からだ：1990年度より現在に至るまで20年にわたり「ボディワーク」講座が開講されている。これは、「Tグループ」についての開講年数である。また、南短センター時代後半に9年にわたり開講された「からだことば」もこのカテゴリーの講座といえよう。

交流分析：南短センター時代の後半から南大センター時代の前半にわたって「TA入門」講座が18年間、開講されている。加えて、「TAによる自己啓発」

講座も開講されている。

ユング心理学：短大センター時代の後半5年にわたり「ユング心理学」講座が開講されていた。南大センター時代に3年開講された「箱庭療法を用いた自己分析」このカテゴリーの講座といえよう。

アート：「造形WS」「アートセラピー わたしと語る」「クリエイティブアート・セミナー」などが南短センター時代の後半に開講されている。

ゲシュタルト・アプローチ：開催回数は少ないものの「ゲシュタルト・アウェアネス」「ゲシュタルト・アプローチ」といったゲシュタルト・アプローチ関係の講座も開講されている。

カウンセリング：カウンセリングそのものではなく、カウンセリングの知見をふまえた自己理解・他者理解の講座として「カウンセリング的対話」や「ノート法入門」などが開設されている。

解決試行アプローチ：2004年より「ブリーフカウンセリング入門」が開講され、2015年からは「解決焦点化アプローチ」として開講されている。

セルフサイエンス：短大センター時代に、計8年間にわたって開講されていた。

ホリスティック：「ホリスティック生命論ワーク」「Holistic Medico セルフケア研修-和学研究」「スピリチュアルケアワーク Holistic Medico 和学研究」などが開設されていた。

・主にグループに焦点をあてたもの

ラボラトリー方式の体験学習：現在、コア講座として位置づけられているものがこれに該当する。2007年の講座区分の改変により、明確に整理された。非構成的な体験としての「Tグループ」「トレーナー・トレーニング」、構成的な体験として、人間関係講座以外に「グループ・ファシリテーター体験講座」「体験学習ファシリテーター基礎講座」「アドバンス体験学習」、組織開発に関して「組織開発ラボラトリー」などが開設されている。

協同学習：2007年度より「協同学習ワークショップ基礎講座」が開講され、2008年度の「協同学習ワークショップ<ベーシック>」へつながる。加えて、2008年度から「協同学習ワークショップ<アドバンス>」もあわせて開講され、以降、継続的に実施されている。

・その他

短大センター時代後半には「ドストエフスキーを読もう」「聖書深読入門」といった読書会も開講されていた。

公開講座の統計データからみたセンターのあゆみ

公開講座数と参加者数をセンター開設時より5年毎に集計するとともに付録の年次推移もあわせて検討した。

まず、公開講座数を集計し、1年あたりの平均を算出したものが、Table 1とFigure 1である。人間関係講座のみと公開講座トータル別に算出している。人間関係講座は基本的に微増傾向の横ばいといえるが、公開講座トータルで見ると、1977年度から1986年度、1987年度から1999年、2000年以降、それぞれに特徴がみられる。

1977年度から1986年度はセンター開設から10年間であり、年間、3, 4講座で安定して推移している。

1987年度から1996年度は講座数が激増し、年に13, 14講座開講されるまでに至っている。付録によれば1996年度は15講座開設されている。さらに1997年1998年と15講座が続き、南短センター最終年である1999年度は16講座と年間講座数のピークを迎える。

2000年以降の南大センター時代にはいと年に9から13講座の間で安定して推移している。

Table 1 5年ごとの公開講座数から算出した1年あたりの公開講座数(講座)

	77-81	82-86	87-91	92-96	97-01	02-06	07-11	12-16
人間関係講座数	1.60	2.00	2.80	3.00	2.20	2.20	3.00	3.80
公開講座総数	3.40	4.20	9.40	13.60	13.00	10.40	11.20	10.80

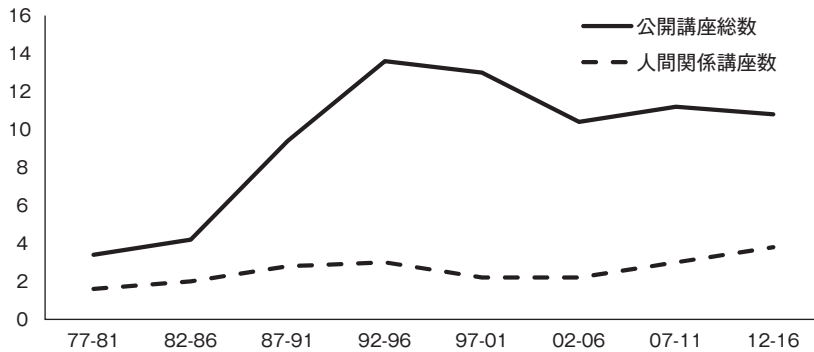


Figure 1 5年ごとの公開講座数から算出した1年あたりの公開講座数(講座)

次に、公開講座参加者数を集計し、1年あたりの平均を算出したものが、Table 2とFigure 2である。人間関係講座のみと公開講座トータル別に算出している。1977年度から1986年度、1987年度から1999年、2000年以降、それぞれに特徴がみられる。

1977年度から1986年度はセンター開設から10年間であり、年間100人前後の参加者数であることと人間関係講座に相当する部分の参加者が全体の多くを占めている。

1987年度から1996年度は参加数が激増し付録によれば300人を超える年もある。この頃には人間関係講座以外の講座の参加者が多くを占めるようになる。

2000年から2001年にかけて、人数の落ち込みはみられたが、それ以降は200人から300人強の参加者を維持している。

以上をふまえるとセンターの発展は、開設10年を初期期、以降南短センター最終年の1999年度までを発展期、南大センター以降を安定期とわけることができよう。

Table 2 5年ごとの公開講座参加者数から算出した1年あたりの参加者数(人数)

	77-81	82-86	87-91	92-96	97-01	02-06	07-11	12-16
人間関係講座参加者	60.00	68.20	74.40	98.80	46.00	72.40	97.60	72.40
公開講座総参加者	88.00	89.60	189.80	303.00	222.00	227.00	268.20	227.00

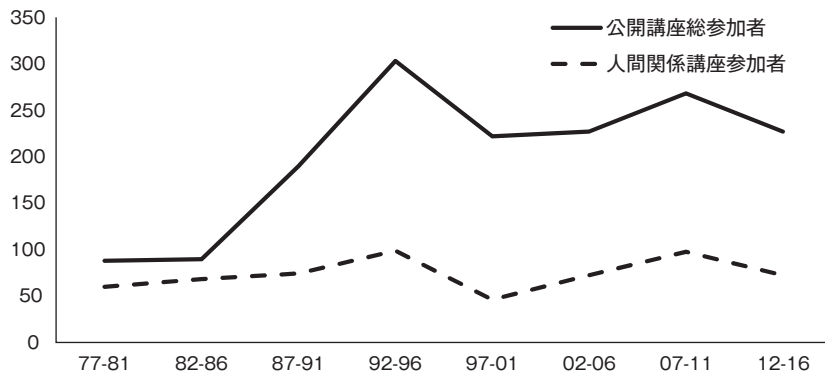


Figure 2 5年ごとの公開講座参加者数から算出した1年あたりの参加者数(人数)

おわりに

人間関係研究センターは開設から10年の初期に人間関係講座を中心として、しっかりとした基盤を培い、その後、個人の心理的成長や人間関係、グループなどにかかわる幅広いユニークな講座を提供することで、飛躍的な参加者を伴って発展してきた。南学センターとなってからは、これまでの発展を維持しつつ、安定した講座数と参加者を擁するにいたった。

これからも大学のモットーである「人間の尊厳のために」センター員の持ち味を活かしながら、さらなる展開が期待されよう。次の5年、10年後の動向がどのようなものとなるのか楽しみである。

謝辞：

原稿作成にあたり、事務局の藤田嘉子さん、牧野麻利子さんには講座一覧などの資料作成のご協力をえましました。また、藤田嘉子さん、センター員の楠本和彦先生には、過去の公開講座に関する情報を提供いただきました。心より感謝いたします。

